



基本理念  
まるさ行こ  
す。され  
るもつ  
地たは  
達に医  
院に心  
指と信  
賴をの  
立行政  
法人  
國立病  
院機  
構高知  
病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

# 病院における 「質向上活動」



NHO高知病院 院長  
大串 文隆

健全な病院組織運営を継続させていくためには治療成績、合併症などの臨床アウトカム、収益、費用対効果、コストなどの財務アウトカム、患者や職員の満足などの満足度アウトカムの3つの視点からのアウトカムをバランス良く向上させていくことが必要です。このためには組織的な質管理（Quality Management）が重要で質向上活動は不可欠と言えます。医療における質改善は患者に必要とされる医療を的確に安全に実施できる標準プロセスの提供と合併症対策が重要な要素です。このプロセスアプローチとしては診療ガイドラインやクリティカルパスなどが使用され医療現場で幅広く普及してきています。しかし、これからはプロセスアプローチに加え臨床指標（質評価指標）などによるアウトカムアプローチからの評価が重要となってくると思います。国立病院機構もクオリティマネジメントの点から臨床評価指標を用いたPDCAサイクルに基づく医療の質改善プロジェクトを立ち上げました。国立病院機構は従来から全ての病院の臨床データを集積し臨床評価を行ってきた経緯があり、わが国の医療にとっても貴重な資料を提供しています。国立病院機構の臨床評価指標は平成18年、26指標で開始されましたが、その後平成22年から87指標、平成27年からは115指標があげられ、今後、これらについての検討がなされることとなります。昨年度までは臨床評価指標の結果が各施設に報告されるのみでしたが今年度から個々の施設において臨床評価指標を用いての改善の取

り組みが開始されます。当院は来年度から開始するグループに属すことになります。来年度、機構の分析した臨床評価指標の中で当院にとって重要な1項目を選択し改善に向かって対策を立て実行していくことになります。臨床評価指標を見直すことは、私達の病院の診療レベルを知ることでありますし、標準以下の項目を改善していくことは医療の質の向上に直接反映させることができます。また、臨床アウトカムを改善することは、財務アウトカムを向上させることでもありますし、このことで満足アウトカムもよくなると思います。国立病院機構はわが国で最も大きな病院組織であり多くの臨床データが集積できる利点がありますが、最近個人情報管理の点から大きな問題がでてきておりインターネットの使用に制限がかかってきています。病院は多くの重要な個人情報を扱う職場でもありますので、データの管理には十分気をつけていただきたいと思います。先にも書きましたが来年度から当院は臨床指標を用いた改善に取り組みます。最初は1指標を取り上げスタートしますが、将来的には全ての指標を対象に改善していきたいと思っています。すでに臨床指標を用いて改善に取り組んでいる病院もあるようですが、当院では初めての試みです。効率的にPDCAサイクルを動かし高知病院における「質向上活動」を高めて、地域に信頼される病院になれるよう頑張っていきましょう。

# 病院機能評価「認定証」が届きました。

管理課長 十河 秀樹



平成27年8月7日付、日本医療機能評価機構より、燐然と輝く「認定証」が送られてきました。これは今年の2月5日、6日に受診した病院機能評価の受審結果です。

病院機能評価とは、病院の運営管理や提供される医療について、前記の評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から病院の評価を行い、一定の水準を満たしている病院を認定病院とするもので、当院もその認定を受けることができました。これは院長を中心として職員全員が一丸となって取り組んだ成果だと思っています。

今思い返すと、昨年4月に当院に転勤ってきて、受審は決まっているけど何から取りかかればいいのか分からず、でも、まだまだ時間はあるな~と思っていたのですが、あれよあれよと言う間に2ヶ月前の事前報告の時期が迫り、書類準備をしていくうちに、あれをしなければいけない、これもしなければいけないと急に忙しくなり、もう間に合わない！！

(涙) と、自分のスケジュール管理の未熟さを痛感しました。病棟では当日の審査に向けた症例の選定、回答の準備に各部署合同で必死になって進めているのを見て、事務部門として書類の不備で迷惑はかけられないととても焦ったことを思い出します。

当日の審査では、厳しい指摘もありましたが、その日のうちに職場全員で改善対応して、翌日には改善内容を提示することでサーベイラー（審査官）を驚かすという部署もありました。また、審査修了後帰ろうとタクシーに乗り込むサーベイラーに対し、状況説明や改善策を懇々と説明した結果、その努力が実り改善事項とならなかったとういう部署もありました。

受審が終わりとにかく大変だったという思いです

が、院内の整理整頓、各種マニュアルの整備など改善の必要性を感じながらも、受審しなければそのまま放置してしまっていたであろう事項が改善された事は、病院の質の底上げにつながり大変良かったと思います。

この受審の目的は、この「認定証」をもらうことではなく、受審に向け実行した改善事項を今後も続けることにより「地域の方々に信頼されるより良い病院を目指す」ことです。この認定がゴールではなくスタートであり、職員全員で心のこもった医療の提供に今後も取り組んでいきたいと思います。

「認定証」は外来待合の再来受付機の上に飾っていますので、是非一度ご覧頂ければと思います。

最後になりますが、職員の皆様におかれましては多忙な業務の中での膨大な受審準備や当日の対応、大変お疲れ様でした。紙面をお借りしお礼申し上げます。



# 慰靈祭を開催して

職員係長 三河 俊介



当院では今年9月25日（金）に、病理解剖による医学・医療への貢献をなされたご尊霊に対して、哀悼の誠と感謝の意を捧げるために慰靈祭を開催させていただきました。平成20年度から平成26年度にご献体を捧げて下さった106名とそのご家族に対し無宗教方式の案内をさせていただきました。

初めての開催のため準備は手探りでありましたが、21名のご家族の方が参加され、その他職員40名、看護学生46名が参列し、滞りなく進行することができました。

慰靈祭では、ご献体を捧げて下さった方のお名前を読み上げ、全員で黙祷を捧げました。その後、院長より弔辞としてご尊霊とそのご家族に対し哀悼と感謝の意を捧げられました。ご家族にとっては、医学発展の為とはいえ、ご自分のご家族を病理解剖の為にご献体を捧げるということには大変な思いがあったと思いますが、多数の参加をいただき、病院としても感謝している次第です。

そして、ご家族の方が最初に献花され、その後参

加者全員の献花により慰靈祭は滞りなく終了しました。

約40分という短い時間でしたが、ご出席いただいたご家族の方々から「このような慰靈祭を開催していただいて感謝します。」といった御言葉を頂きました。私たち医療に関わる者として、感謝を忘れないために開催して良かったと思っています。

今回、ご参列して下さったご家族の方に深く感謝すると共に慰靈祭を開催するにあたり準備や出席していただいた職員等の方々に対し、お礼申し上げます。



## 新任紹介



栄養管理室長 大年 典子

南岡山医療センターから、10月1日付で転入してまいりました管理栄養士の大年典子（おおとし のりこ）と申します。今回で国立病院に入って、早5回目の転勤となります。私は整形外科病院・透析クリニックの個人病院を経て、呉医療センター・福山医療センターの急性期病院と愛媛病院・南岡山医療

センターの慢性期病院で、いろいろな経験をさせていただき、それらの良い点を高知病院で發揮できればと思います。特に病院では、食事は単に栄養補給のためだけの手段でなく、患者さんの治療面・精神面にも密接に関係しています。“食”は人を良くすると言われますが、栄養管理室から提供する食事や管理栄養士が行う栄養指導が患者様にとって、マイナス思考に導くのではなく、少しでもプラス思考・前向きに繋がり、一人でも多くの方の治療の軽快に貢献できるよう栄養管理室一丸となって頑張っていければと思います。何かと、皆様にはお力を借りることが多分にあると思いますが、宜しくお願い致します。

# 平成27年度「できることから始めよう！ 国立病院機構QC活動奨励表彰」受賞

## 特別優秀賞

看護師 山崎 絵里



先日、平成27年度「できることから始めよう！国立病院機構QC活動奨励表彰」で特別優秀賞を受賞し、表彰式に参加させていただきました。当日は生憎の雨の中、羽田空港から電車を乗り継いで国立病院機構本部へ向かいました。途中、昼食に割ける時間が15分程度しかなく、泣く泣く松屋で牛丼をかきました。こんだ後、嵐の中本部に辿り着いた頃には全身ずぶ濡れになっていました。気を取り直して表彰式へ。

初めてお目にかかる国立病院機構の理事長他、そうそうたるメンバー。最初は緊張していましたが、優しい雰囲気の中での表彰式だったので緊張もほぐれていきました。表彰式の後は、受賞した病院同士で懇談会が開かれました。私は、小児の手術前後の

ICの必要性、実際にプレパレーションを用いICを実施した成果について発表しました。意見交換では、他病院のQC活動への思いを聞き、それぞれの病院が熱い思いを持って取り組んでいることがよく分かりました。また、QC活動は病院を良くするためだけの活動ではなく、全ては患者様にとって質の高い医療、看護を提供することにつながる活動であると改めて認識できました。

せっかくの東京、帰りくらいは美味しいものを食べて帰ろうと企てていました。しかし、懇談会が1時間オーバーしたこともあり、行きと同様に時間に追われ、東京の締めくくりは立ち食いラーメンで終わりましたが、とてもよい経験となりました。

## 優秀賞

臨床工学技士 杉本 攻



国立病院機構本部主催で行われている「できることから始めよう！」をスローガンとした「国立病院機構QC活動奨励表彰」において、今回当院から特別優秀賞と優秀賞の2題が選ばれ、医療安全で取り組んだ「ボタン操作は間違えません」が優秀賞に選ばされました。

人工呼吸器に使用している加温加湿器のスイッチを押し間違えて、患者さんの加湿が十分に取れなくなつたという事例に焦点をあて、いかに押し間違いを無くすかを検討したところ、スイッチにカバーを取り付けてみてはどうかと思ったのがQC活動の

きっかけでした。試行錯誤したなかで、作成したカバーは注意喚起を促すには十分目立つものとなり、押し間違える事例を無くせる事と思います。

まだ改善の余地があり、更なる取り組みが必要ですが、医療機器の安全向上に向けて頑張りたいと思います。人工呼吸器を始め、医療機器は院内あらゆる場面で日常的に使用されており、些細なエラーでも患者様に重大な影響を与える事故に繋がる可能性があるので、これからもQC活動に取り組んでいきたいと思います。

# 第69回国立病院学会ベストポスター賞



作業療法士  
公文 啓人



10月2・3日に北海道で開催された第69回 国立病院総合医学会に参加させていただき、ポスター発表を行いました。発表タイトルは「生活意欲が低下した症例に対する介入－カナダ作業遂行測定を用いて－」というもので、重症心身障害児・者病棟で長期的に作業療法を実践したものです。内容としては、作業療法士として身体的な部分だけではなく精神的な部分に着目し、COPMという評価から本人のニードを軸に行動を変容していくという介入でした。

私は、10月2日～3日の2日間、札幌で開催された第69回国立病院機構総合医学会に参加しました。

当日は、平成26年度の診療報酬改定による病棟勤務の全看護職員に実施した「看護必要度」の研修への工夫について、看護師長・副看護師長で取り組んだ内容を、「当院独自のDVDによる演習の評価結果に基づいた研修の効果」というテーマで、ポスターセッションで発表しました。



発表時間は質疑応答を含め5分間と短い時間で、長期間の関わりを要約し、伝える難しさはありました。しかし、発表後は他病院の先生から方法や考察に関する質問・助言をいただくことができ、非常に有意義で貴重な経験ができたと感じております。ポスターの作成やプレゼンテーションにおいては当科の上司・先輩方からの助言もあり、結果的にベストポスター賞に選出していただくことができました。今回、発表を行うことで自分自身の介入を振り返ることが出来、自分に対するフィードバックが行えたようになります。この発表経験を活かし、今後の研究発表にも研鑽していきたいと思います。

副看護師長  
天野 智佐



発表後の質疑応答では、「看護必要度」に関する質問や意見があり、他施設においても同様に課題が多く、検討を重ねている現状を知ることができました。

広い会場での発表と、たくさんの参加者を前にしての発表でとても緊張しましたが、他施設の方々に視聴して頂き、自分達の取り組みを伝えることができたという手ごたえと共に、達成感を得ることができました。

座長からは、発表内容に対し「各施設で課題が多い看護必要度への継続した今後の取り組みに期待する」との評価を頂戴し、ベストポスター賞を頂くことができました。思いがけない受賞となり、ポスター作りや発表内容のチェックなど、発表当日ギリギリまでの苦労が、一瞬にして喜びへと変わりました。

今回の学会で学ばせて頂いたことを、高知病院副看護師長としての活躍の礎とし、さらに日々の研鑽に励んでいきたいと考えています。



# 平成27年度 「つくし病棟花火大会」

保育士  
恩地 真由



つくし病棟の夏の行事、つくし病棟花火大会が賑やかに行われました。日頃外出の機会の少ない利用者の方にとっても、夏の楽しみの行事です。前日には利用者さんが集まって訓練室の飾りの製作を行いました。会話も弾み、みなさん楽しみに待っておられる様子でした。

当日は時間前から法被や甚平、浴衣を着た利用者の方がたくさん集まり、今か、今か…と待ちきれない様子。まずは、『フライデー☆プラス』さんによるボランティア演奏で華やかに始まりました。♪妖怪ウォッッチメドレー、トトロメドレーや童謡、♪川の流れのようにななどの歌謡曲まで様々な演奏が楽器紹介を含めてあり、曲に合わせて身体を動かしたり、一緒に口ずさんだりして楽しめている姿があちらこちらで見られました。

演奏会で盛り上がったあとはいよいよメインの花火大会です。ナイアガラや打ち上げ花火、噴水花火が上がる度に会場のあちらこちらから歓声や拍手がわき「綺麗やねえ」の声が上がりました。最後は手持ち花火を持ち、利用者の方を中心のご家族や職員が囲んで楽しいひとときを過ごされて居ました。楽しかった花火大会、利用者の方の夏の良い思い出となった事と思います。最後に、今回のつくし花火大会にご参加、ご協力頂いたみなさまありがとうございました。



# 平成27年度 「第43回つくし病棟運動会」

保育士  
林 瞳



10月10日(土)に重症心身障害児者病棟で「第43回つくし病棟運動会」が開催されました。今回のスローガンは「秋だ！みんなで元気に頑張ろう！」となり、利用者さんと一緒に準備を進めてきました。当日は天候が不安でしたが、何とか雨も降らず、イベント広場で、みんな元気に参加することが出来ました。

今年の競技は、ボウリング、玉入れ、bingoゲーム、チャレンジ競争、リレーの5つに加え、高知県立若草養護学校国立高知病院分校の生徒さんによる綱引きと親子ダンスもあり盛りだくさんの内容でした。利用者さんはご家族の方や看護師さんと一緒に競技に参加したり応援をしたりと、とても盛り上がってました。その力闘の結果、今年の優勝は赤組でした。途中、水分補給の休憩では、毎年恒例になっています看護師さんによる応援パフォーマンスも行われ、皆さん手拍

子に合わせて素敵なかわいいダンスを披露していただきました。最後には、みんなが楽しみにしていたもちまきも行われ、賑やかに閉会しました。

当日は、たくさんのご家族の方々、OB・OGの方々の参加だけでなく、高知病院附属看護学校の学生ボランティア20名の参加もあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。たくさんのご協力、ご参加、ありがとうございました。

# ふれあい看護体験

副看護師長 佐藤 愛美



7月22日に高校生22名を迎え、ふれあい看護体験を実施しました。「看護師の仕事に興味がある」「将来、医療系の仕事につきたいと思っている」「附属の看護学校を受験しようと思っている」等・・・参加の動機はさまざまでしたが、当院のロゴマークの入ったTシャツに着替えてもらい、緊張気味でスタートしました。患者さんのベッドサイドに伺う為、感染管理認定看護師より正しい手洗いの方法を学び、実技を行いましたが、汚れが残っている自分の手を見て驚きの声を上げる学生さんたちがいました。きっと手洗いの重要性について感じて頂けたことだと思います。それから各グループに分かれ病棟の担当看護師と共に患者さんの清潔援助やベッドメイキング、食事の準備や介助等の看護師の仕事の実際を見学したり、一緒に実施しました。患者さんに

「ありがとう」と声をかけてもらった学生さんの嬉しそうな笑顔が印象的でした。体験終了後は担当看護師と意見交換を行い、病棟での体験を共有しました。「今まで知らなかったことを知り将来に向け更に希望を持つことができた」「現場でしか体験できない事がたくさん学べた」等多くの嬉しい感想が聞かれました。また、病棟看護師達もフレッシュな学生さんから良い刺激を受けることが出来ました。来年も楽しく体験ができるよう準備していきたいと思います。



## 「第11回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会」に参加して

副看護師長 大原 真理



9月12日に下関で開催されました「第11回中国四国地区 国立病院機構・国立療養所 看護研究学会」に参加してきました。当日は天候もよく、「下関市生涯学習プラザ」を会場に、中国四国地区22施設からの参加があり、78題の発表が行われました。

私が発表した施設の会場は人をかき分けて歩くほど参加者は多く、各ブースでは発表に耳を傾け熱心に聴く参加者の姿が見られました。そんな中「重症心身障害者の筋緊張時のストレスの実態」というテーマで、唾液アミラーゼ活性値を利用した研究について発表しました。発表後、唾液アミラーゼ活性値測定の器材と測定方法について質問があり、研究方法についての効果的なプレゼンテーションの必要性を感じました。また、今回の研究結果を今後の看

護につなげたいと思いました。同じブースでの「おむつの当て方について」の発表は、患者のQOL向上のために看護師が容易に実践できる内容であり、日々のケアの参考にしたいと思いました。

最後に、学会参加は自分たちの研究を発表することと他施設の取り組んだ研究を知ることで互いの看護の質を高めていくためのものです。参加を通して以前一緒に働かせていただいた懐かしい顔ぶれに何人も再会することができ、これも充実した時間の一部と感じました。また現地で美味しいものに触れるというおまけもありますが、学会参加には若いスタッフをはじめ、さらに多くの人が楽しんで参加してほしいと思いました。

# 第8回呼吸不全研究会



理学療法士 加嶋 憲作

平成27年9月12日、高知市文化プラザかるぽーとで「呼吸不全研究会」が開催されました。この会は、呼吸不全によって生じる様々な疾病について、その啓発と治療の普及を図り、地域医療の発展に貢献することを目的に毎年開催され、今年で8回目になります。当院の大串院長が世話人を務めている関係もあり、発表の機会をいただきました。

私の発表では、「PTの立場からみたCOPD患者の問題点」と題して、COPD患者さんを取り巻く様々な問題の中から、「身体活動性」に焦点を当てました。特別講演では、呼吸リハビリテーションの第一線で活躍する順天堂大学大学院医学研究科の佐野裕子先生が、「身体活動を高める呼吸リハビリテーションの実際－導入と継続のポイント－」についてご講演されました。

COPD患者さんにとって運動の維持が重要であることは以前から指摘されていましたが、近年、COPDの予後予測因子に身体活動量が最も影響を与えることが明らかとなり、身体活動性に注目が集まっています。本研究会でも、一般演題と特別講演の計3題のうち、2題がCOPD患者さんの身体活動性に関するものでした。

身体活動制限は、死亡率の増大、増悪による入院の可能性、長期入院の要因、QOLの低下など様々な悪影響を与えることが報告されています。しかしながら、COPD患者さんの身体活動レベルを向上させるための具体的なアプローチ法や、その効果に関するエビデンスは乏しいのが現状とされています。当院においては、平成25年度より呼吸器センターが開設され、リハビリテーション科スタッフがCOPDなど呼吸器疾患者さんに関わる機会は年々増加しています。漫然とリハビリを継続するのではなく、臨床・研究を通じて、地域の呼吸器医療の発展に貢献することが私たちの責務と考えます。この度、呼吸リハビリテーションに携わる他施設の医師やコメディカルスタッフとの意見交換もでき、非常に有意義な研究会でした。



## 診療科紹介（皮膚科）

### 【光線治療機器セラビーム®UV308について】



皮膚科医師 高橋 綾

皮膚疾患の治療の一つに光線治療があります。光は波長によって、紫外線、可視光線、赤外線に分類され、その作用も異なります。以前より紫外線を利用した治療機器はありました。最近では技術の進歩により、有効性や安全性がより高いとされる波長の光を利用した機器が開発されており、セラビーム®UV308もその一つです。この機器は、波長308nmの光にピークを持つ光源エキシマライトです。特徴は、皮膚に赤みを生じるのみで治療効果のない波長297nm以下の光をカットするエキシマフィルターを装備していることです。乾癬、類乾癬、掌蹠膿疱症、菌状息肉症、悪性リンパ腫、慢性苔癬状扁平苔癬、尋常性白斑、アトピー性皮膚炎などに使用しますが、他の皮膚疾患に対して使用する場合もあ

ります。一度の照射範囲は約12cm×10cmであるため、全身ではなく限局した発疹部に照射します。照射時間は発疹の状態や部位によって異なりますが、数秒から数分と非常に短時間です。照射中は痛みも



ありません。照射回数は週1から2回程度であり、治療期間は発疹の状態により異なりますが数週間から数ヶ月となります。当院では、診察室の隣の部屋に機器を設置しているため診察後速やかに治療を受けることが可能です。ご興味のある方は皮膚科でご相談ください。

# 医療事故調査制度について

医療安全管理係長 山本 三恵



医療事故調査制度が盛り込まれた医療法の改正が平成26年6月18日に成立し、制度は平成27年10月1日に施行されました。

この制度の目的は医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）が収集・分析することで事故の再発防止につなげます。これらの医療事故に係る調査の仕組み等を、医療法に位置づけ、医療の安全を確保するというものです。

皆さんは医療事故と聞くと、医療側のミスによって引き起こされる事象と思いがちですが、本来の定義とは少し違います。医療事故とは「医療に関する場所で、医療の全過程において発生する全ての人身事故」の事をさします。すなわち、患者さんに損害が生じた場合だけでなく、医療従事者が損害を受けた場合も含め全ての事故が医療事故に当たり、医療事故の表現には医療従事者の責任があるか、ないかということは含まれていません。医療者側のミスにより発生した事故は医療過誤といい、医療事故の中に

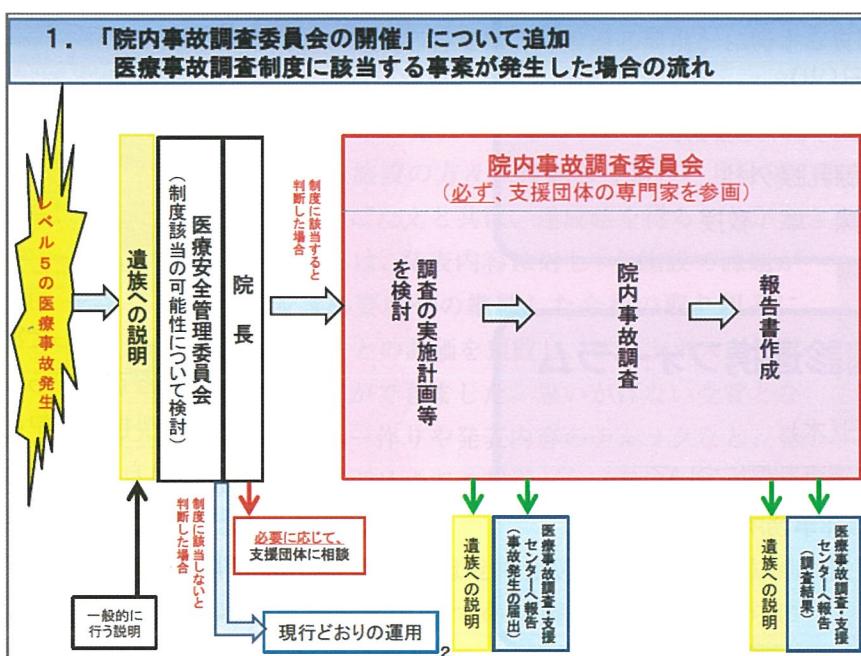
含まれます。

本制度の対象となる医療事故とは、「当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、または起因すると疑われる死亡または死産であって、当該管理者（施設長）が当該死亡または死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの」とされています。当院の対応としては、事故発生時には対象となる事故かどうかを医療安全管理委員会でまずは検討します。院長が本制度の対象となる医療事故だと判断した場合は院外の専門医を交えて院内事故調査委員会を開催するという流れ（図1）になります。

今回は制度が開始されてから間がなく、概要だけ説明になりましたが、今後皆様からのご質問や新しい情報が入りましたら報告させていただきます。

尚、12月10日には弁護士による医療事故調査制度についての講演会を地域医療研修センターで開催する予定です。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

（図1）



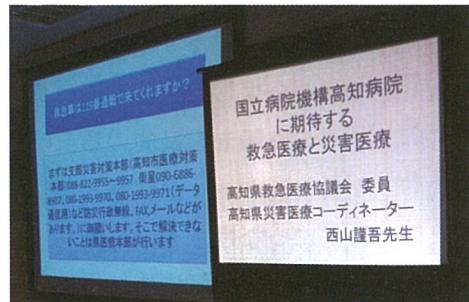
# 地域医療連携室だより

地域医療連携室 秋森 容子



季節もすっかり秋めいて、気候も良くなり各地で様々なイベントが催されています。先日も越知町のコスモス祭りに行き、きれいな花と風景、地元の味を堪能してきました。

さて、少し前のことになりますが、7月30日の高知病診連携フォーラムで高知赤十字病院 高知県災害医療コーディネーターの西山勤吾先生をお招きして「国立病院機構高知病院に期待する救急医療と災害医療」をご講演頂きました。高知県の救急医療・地域完結型医療における当院の役割や地域連携の重要性について改めて認識が出来ました。また、災害医療では今後起こる南海トラフ地震への対策で、高知市内の災害拠点病院として津波被害のない当院の役割は大きいこと、救護病院や広域災害拠点病院と連携しながら被災患者の流れをつくっていく事などを学びました。災害や救急医療については、皆さん関心が高く職員は80名、院外からも22名の参加があり有意義なフォーラムになりました。



## 第114回高知病診連携フォーラム

日 時：11月24日(火)

徳島大学医学部付属病院  
食道甲状腺乳腺・外科  
丹黒 章 教授

地域医療連携室に  
看護師が1名加わりました。



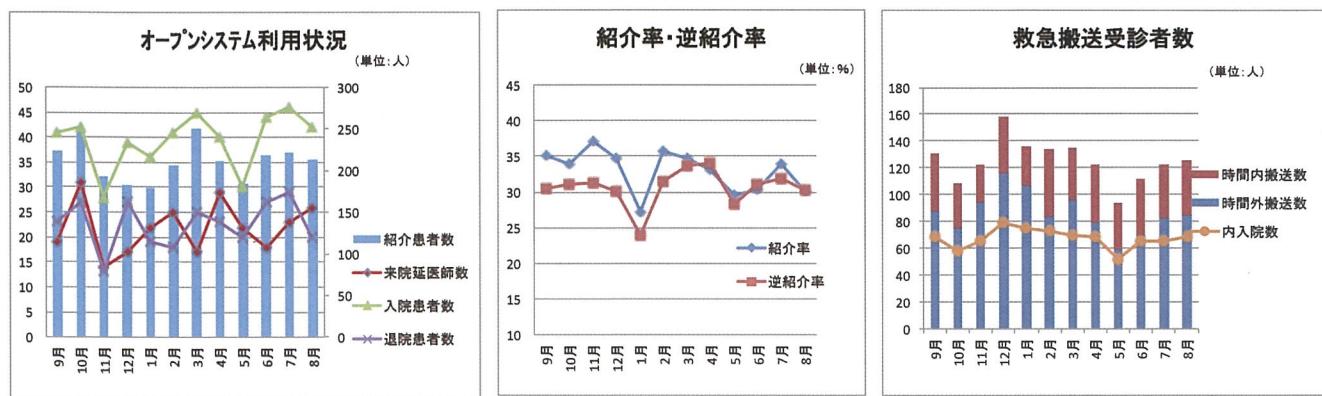
## 第115回高知病診連携フォーラム

日 時：12月10日(木)

テーマ：「医療事故調査制度について」  
森脇法律事務所  
森脇 正

10月から配属になりました宮田です。初めての部署で分からぬことばかりですが少しでも早く患者さんのための前方・後方支援ができるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

## 高知病院地域連携等概況(27年度)



## 感染管理室だより

### エイズについて

感染管理認定看護師 原 昭恵



12月1日は世界エイズデーです。高知県では、エイズに関する総合的かつ高度な医療を提供する病院として1施設のエイズ治療中核拠点病院と、4施設のエイズ治療拠点病院が指定されており、当院はエイズ治療拠点病院となっています。

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染している状態をHIV感染症といいます。HIVは免疫機能を破壊し病気にかかりやすくするウイルスで、血液・精液・膣分泌物・母乳を介して感染します。エイズ（後天性免疫不全症候群）とは、HIVのために免疫力が落ち、エイズ発症の指標として指定されている23種類の感染症のいずれかを発症した状態を指します。HIVは体液内でしか生息できず、体外に出ると感染力が弱まるため、感染者の咳や汗をはじめお風呂やプールなどの共用でHIVに感染することはありません。

高知県では、毎年2～3名の新規発生報告があり、特にエイズを発症した状態で報告される患者も増えています。

病院内では使用後の注射針による針刺しなどにより職員がHIVに感染する可能性があります。医療行為を行う限り、針刺しをはじめとする体液への曝露事故を完全に回避することは不可能です。万が一針刺しを起こした場合の応急処置としては、ただちに流水と石鹼で受傷部位を十分に洗浄してください。受傷部位から血液を絞りだすことや、受傷部位の消毒などは有効性が証明されておらず、推奨していません。抗HIV薬の予防内服はできるだけ早く行うことが必要です（できれば受傷後30分以内、遅くとも2時間以内）。抗HIV薬は救急外来に常備しており、24時間対応可能となっています。院内職員に限らず、近隣の一般医療機関でHIVの針刺し事故が発生した際の曝露後予防の対応も受け入れていますので、遠慮なく相談して下さい。



## ◆◆◆◆◆栄養管理室より

### レシピ紹介

主任栄養士  
永野 由香里



今回は旬の柿を使った、火もゼラチンも使用しない簡単なおやつ  
『柿フリント』をご紹介します。

#### 【材料(カップ4個分)】

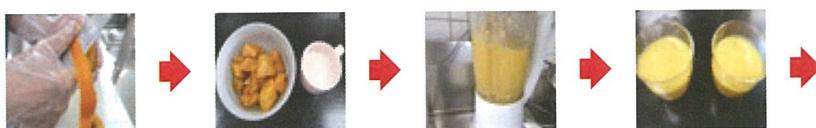
- ・ 柿(完熟) 300g/2個
- ・ 牛乳 150ml

- ※ 柿の甘味だけで十分ですが、甘味が欲しい時は砂糖やはちみつで調整してください。
- ※ トッピング(お好みで)  
生クリーム、ミントなど

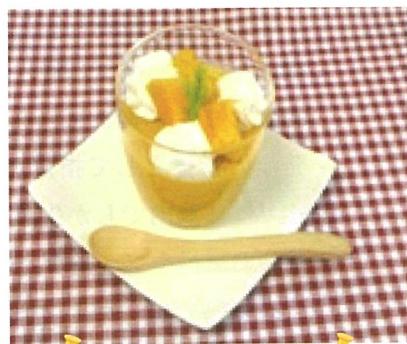


#### 【手順】

- ① 柿をよく洗い、皮をむき種をとります。
- ② 柿と牛乳をミキサーにかけます。
- ③ ペースト状になったら器にいれます。
- ④ 冷蔵庫で2時間ほど冷やします。
- ⑤ お好みでトッピングして、出来上がり。



ぜひお試しくださいね♡



Q:ゼラチンを入れていないのにどうしてかたまるの?

A:柿に含まれる食物繊維の一種であるペクチンと牛乳のカルシウムが反応するためゼラチンがなくても固まります。ただし柿の熟し方が未熟な場合、かたまりにくいことがありますのでご注意ください。



1個あたりの栄養価  
(写真のトッピングは含まない)

エネルギー : 70kcal  
たんぱく質 : 1.6g  
脂 質 : 1.6g

#### ～柿の栄養と効能～

柿に含まれるビタミンCの量は、日本人がよく食べる果物の中でトップクラス。疲労回復や風邪予防、美肌効果が期待できます。柿のオレンジ色には、抗酸化作用のあるβカロテンも含まれています。苦み成分のタンニンにはアルコールを分解する作用があり、さらに利尿作用のあるカリウムなどを含みます。酸化還元作用のあるビタミンCとタンニンの相乗効果で二日酔いにも効果があります。さまざまな効果効能がある反面、タンニンの過剰摂取で鉄分の吸収が妨げられてしまったり、カリウムを多く含むため疾患によっては過剰摂取に注意する必要があります。食べ方に関してご質問などがありましたら栄養管理室までご相談ください。

# 看護学校だより

# 看学祭

教員 水口 沙紀



平成27年10月16日（金）、17（土）に『看学祭』を開催しました。今年のテーマは『Link Of Smile～地域とつながり隊～』です。「看護学校の存在を知るきっかけになってもらいたい」「来場してくださった人に笑顔を広げたい」という願いを込めて学生が主体となり企画・運営をしました。

1日目は、学習成果発表会を行いました。1年生は10月30日に行われるウィルセレモニーに向けて戴帽式の歴史やナイチンゲール誓詞の意味について、2年生は基礎看護学実習Ⅱの振り返りの学びを、3年生は看護研究の授業で取り組んだケーススタディーの発表を行いました。質疑応答では、学年の枠を超えてそれぞれ活発な意見交換をすることができました。各学年が学んだ看護を共有し、学びを深めることができたと思います。

2日目は秋晴れに恵まれた中、大勢の方々に参加していただき模擬店、バザー、健康チェック、アロママッサージ…様々なイベントを行うことができました。今年の公開講座は『災害への備え～避難所体験をしてみよう～』というテーマで、いつ起こるかわからない災害に備えるために地域の人と共に災害への対策を考えました。昼からのステージではよさこい踊り、1年生の有志によるコーラスを披露しました。実習中に受け持たせていただいた患者さんとその家族、重症心身障害児（者）病棟の患者さんも大勢来て下さいました。手拍子をしながら一緒に楽しむことができ、学生も来場してくださった皆様と笑顔の輪をつなげることができました。

また、今年度は新聞への折り込みチラシ、ポスター掲示場所の増数など宣伝にも力を入れました。その効果もあり、200人を超える方々にご来場いただきました。心から感謝を申し上げます。なお、来場された方への案内等行き届かない点もあったかと思いますが、次年度は、御指摘いただいたところを改善し、今年以上の看学祭ができるようにしていきたいと思います。参加いただいた地域の皆様や病院職員の方々には多大な御協力・御支援をいただき、本当にありがとうございました。今後も地域とつながり続ける看護学校であるよう、学生と一緒にこれからもがんばっていきます。



からあげ  
ブースです♪



地域の方と  
災害について  
考えました



1年生の有志による  
カントリーロード♪  
会場から手拍子が  
響いていました

## 職員の異動

### 転入

栄養管理室長 大年 典子 2015年10月1日付

### 退職

診療放射線技師 近藤 匡史 2015年8月31日付

一般職員(庶務係) 鈴木 啓介 2015年9月30日付



# 外来診療担当医表

(平成27年10月1日現在)

■受付時間 8:30~11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。  
 (新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人  
国立病院機構

高知病院

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号  
 TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385  
<http://www.hosp.go.jp/~kochihp>



診療科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内科	午前	1 診	(12) 門田・町田	内藤・岡野	井上 修志	今西 志乃	畠山・高橋
		特別外来	(11) 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神経内科			(17) 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前	1 診	(8) 篠原 勉	大串 文隆	畠山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	岡野 義夫
		2 診	(6)		高橋・田岡	町田 久典	篠原 勉
		3 診	(12)				門田・内藤
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器内科	午前		(9) 井上・末内	三井 康裕	板垣 達三	井上 修志	板垣 達三
循環器内科	午前		(7) 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後	専門外来				ペースメーカー(第2木曜)	
リウマチ科			(10) 松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約・再診のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診	(1) 武市 知己	大石 尚文	武市 知己	小倉 英郎	高橋 芳夫
		2 診	(2) 大石 尚文	井上 和男	長尾 佳樹	武市 知己	大石 尚文
		3 診	(3)			井上 和男	小倉由紀子
	午後	専門外来	神経・アレルギー (第2月医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ	神経・内分泌・腎臓 乳児検診
		予防接種	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)
外科	午前		(5) 大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	小笠原 卓
	午後	専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前		(1) 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原(第1・3・5) 小林(第2)	合田 有一郎
	午後					合田(第4)	
						田村 萌也	
脳神経外科	午前	1 診	(8) 非常勤 10:00~	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁
呼吸器外科	午前		(7)	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前		(5)				
皮膚科	午前		(13) 高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前		(9) 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 大河内(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前		(35) 滝川 稔也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	予約制
	午後						
婦人科	午前		(31) 福家 義雄	小林 文子 (完全予約制)	小林 文子	滝川 稔也	当番医
			原田 裕子				
眼科	午前		(23) 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前		(16) 岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野
	午後						
リハビリテーション科							
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。

※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。